



ふるぼう知生の

「古ちゃん'S レポート」 第19号

こんにちは。涼しくて過ごしやすい季節を迎えましたが、お元気でお過ごしでしょうか。

さて、9月22日から10月28日まで豊島区議会第三回定例会が開かれ、激しい議論をして参りました。第19号としてレポートを書きましたので、ご一読いただければ幸いです。

まずご報告したいのは、新しい会派結成についてです。今度の区議選で多くの候補者が、東日本大震災を意識して、安全・安心・防災等についての言及をしていましたが、私はあえて議会改革のために新しい会派を結成して正副幹事長会に参加し、議会を改革することを第一の公約に掲げました。いろいろな紆余曲折はありましたが、8月30日にそのスタートとなる新会派を5名で結成しました。名称は「みんなの党・無所属刷新の会」です。そして、不肖私がこの会派の幹事長を務めることになりました。私以外は全員一期生の新人議員です。新人ながら、さすがに選挙で勝ちあがったメンバーだけあって、それぞれに自分の得意分野を持ち、個性が輝いています。「寄せ集めだ。数合わせだ。」という先輩議員の批判が当たっていなかったと証明するために、区政の様々な課題に対してしっかり議論し、志を一つにして行動して参ります。若くて、フレッシュな会派ですが、ぜひ温かく見守り、時には叱咤激励していただければ幸いです。

平成23年10月31日

豊島区議会議員 古坊 知生



会派結成届を正副議長に提出 (8月30日)



会派結成の経緯を議長に報告



8月31日、左のように初めて正副幹事長会に参加しました。豊島区議会では、議会運営委員会で議事の進行の流れが決定されますが、その前に正副幹事長会において調整を図る形をとっています。正副幹事長会を通さずしては何事も進まないという現状があるのです。皆様のおかげで一步駒を進めることができました。議会改革に向けてしっかり発言して参ります。

9月27日 一般質問をしました。

「豊島新時代到来。新しい発想と具体的な行動で大転換を！」

問1：区長選の時に区長候補者が各党・各会派の推薦をもらうと、二元代表制の一翼を担う議会とのなれ合いが生まれ、議会の形骸化につながり、議会が役所の追認機関成り下がる恐れがあると考えますが、区長の見解は？

答：豊島区政発展のためにお互いが理解し協力をしていくために、各党から推薦を頂いている。区民の代表である議員の声を十分聞き、同じ目的を持つ会派の方々の意見を生かしていく区政を進めてきた。人間関係はお互いを理解し、協力してこそ大きな力が発揮できると考える。ご指摘の批判は当たらない。

問2：首長と議会の対立が全国で見られるようになってきた。万が一区長が実行したい政策に対して議会が反対したら、議会を解散する手段をとるか？

答：区長選に臨むにあたって政策協定を結んだ各会派を中心に十分話し合い、納得できる結論を見出すことが必要で、議会解散など想定にない。

問3：事前復興ビジョンについての区の認識は？

答：震災対策には、災害予防、応急対応、復旧・復興の3段階がある。一連の対策を日常から真剣に取り組んでいくことが総合的な震災対策に繋がると考えている。都市の復興は莫大な財源と時間を要し、住民との合意形成が不可欠である。従って想定される首都直下型地震が発生する前に、地域との協働で、震災に見舞われた後の復興街づくりの方針を打ち出すことは、一日も早く復興を成し遂げる最善の方策であると認識している。

問4：他区と比較すると豊島区はどの程度進んでいるのか？

答：23区では既に17区がマニュアルを策定し、15区が何らかの形で震災に関する条例を制定している。本区はマンションの林立や密集など、高密度都市特有の難しい課題があり、慎重に対応したことから今年度の策定になったが東京都が平成21年に定めた区市町村震災復興標準マニュアルに準拠しており、実効性の高いマニュアルを策定した。

問5：上池袋地区震災復興街づくり訓練での参加者の反応や推進における課題、そして今後の周知についてどのように考えるか？

答：震災に関する意識や地域コミュニティの向上、震災復興の実効性を高める条例の制定、震災を想定した日常の街づくりの展開等のご意見を頂いた。訓練により、地域の弱点を見つめなおし、発災後を見据えて、今から準備しておく大切さを共に学ぶことができた。課題としては、生活・産業編を加えた復興マニュアル全編の完成、復興マニュアルの内容を担保し、事前に規制内容などを区民にお示しするための条例の制定、復興訓練の実施、そして事前復興ビジョンの策定である。今後の周知に関しては出前講座等を実施する。

問6：罹災証明発行システム実証実験で得られた成果と課題は？

答：区民の皆さんに地震発生後の住家被害調査、罹災証明の発行など模擬体験をしてもらい、生活再建について考えてもらう機会を得たことや、部局を超えた連携を実施できたことが成果だが、訓練の継続等に問題点を残した。

問7：防災計画担当課長を新設した理由は？

答：複合的な様相を呈する震災の影響に的確に対応していく為には、中長期的な対策が必要であり、その専管組織として防災計画担当課長を新設した。

《本会議場で一般質問》 9月27日



《都市整備委員会のワンシーン》 9月30日



《平成22年度豊島区決算特別委員会》 10月6日～10月24日



定例会最終日、本会議がまさに始まろうとしてする30分前に、ある陳情に対する賛否の態度表明について、会派の方針と違う態度表明をしたいと2人の議員から申し出がありました。説得を試みましたが、不調に終わり正副議長に報告をし、本会議の開始時刻を遅らせるという状況になりました。早速正副幹事長会が開かれ、私から事情の説明を行い、会派のメンバーともう一度議論をして、当初の予定通りの行動を一致して行うことで理解してもらいました。本会議を始める前に、議員協議会において、会派を代表して本会議を遅らせてしまったことに対する謝罪をしました。最終的に本会議が終了したのは9時過ぎでした。今回このようになって多くの方々にご迷惑をおかけしたことを深く反省し、私個人も含めて新会派を成長させるべくしっかり頑張りたいと改めて決意させられました。

ふるぼう知生後援会事務局：〒170-0013 豊島区東池袋5-48-12 TEL&FAX：6912-9595
E-mail:t-furubou@adagio.ocn.ne.jp 会派：みんなの党・無所属刷新の会 TEL&FAX 3981-1350